



N.S.ニュース速報A

**NSDAP/AO : PO Box 6414
Lincoln NE 68506 USA
www.nsdapao.org**

#1101

20.04.2024 (135)

ミヒャエル・キューネン (Michael Kühnen)

第二の革命 第一巻：信仰と闘争

第14回

第三帝国のユダヤ人排斥策を説明したり正当化したりすることは、私の願いでも仕事でもない。ひとつだけ確かなことは、国家社会主義国家のユダヤ人に対する政策は厳しいものであったということである--おそらく時には厳しすぎることもあっただろう。しかし、歴史の真実のために、1つのことを明確に述べなければならない：

国家社会主義は、ユダヤ人に対する大量殺戮プログラムを計画したことも、実行したこともない！大量殺人は国家社会主義政策の手段ではありません！ユダヤ人に対する犯罪は一度もない。若い世代の一員である私は、この問題についての専門家ではありませんが、それは主に、私の関心が過去よりも、現在と未来における国家社会主義政策の必要性にあるためです。絶え間なく続く敵のプロパガンダ、多くの情報源の不確実性と怪しさ、そして、権力者が国家社会主義を悪者にすることに大きな政治的関心を抱いていることから、第三帝国の本当のユダヤ人政策について完全な真

実を知ることができるとは思えないのです、ブッヘンヴァルトの囚人ラッシニエ教授、アウシュヴィッツのカイザー・ヴィルヘルム研究所の助手クリストファーゼンなどの目撃者、アメリカのブッツ教授などの科学者が証明しているように、私たちは何十年も嘘をつかされてきたのですから。

ドイツの戦争犯罪、特に憎きユダヤ人に対する虐待、異常、犯罪は確かにあったが、たとえひどい戦争中であっても、その名の下に行われた個人の悪行のために、ある世界観を非難することはできない。そうでなければ、フランス共和国の大量殺人や北米インディアンの大量虐殺（「死んだインディアンだけが良いインディアンだ」というのが、前世紀にいつも道徳的だったアメリカ人の意見だった）の後では、もはや民主主義について語るべきでなく、集団化および「収容所群島」の何百万もの犠牲者の後には、もはやマルキシズムについて語るべきでもない！

世界観は進化し、失敗から学び、問題から成長する。今回の本当の罪は別のところにある：

半世紀の間に2度目、シオニズムは世界をドイツとの戦争に突入させたのである。1945年、ドイツの権力は再び崩壊し、第二次世界大戦も敗北し、再び反逆が起こった。戦争に負けたことは奇跡ではありません！敵が自国の参謀本部、重要な司令部に座っていたにもかかわらず、勝利したのは奇跡だっただろう！国防軍の特に高官である反動分子とフリーメーソンの裏切りの程度は想像を絶するものであり、償いを求める声が上がっている！兵士の命や帝国の自由と存続に何の関心も持たず、憎い政権を倒して特権を取り戻すことさえできれば、裏切り者たちは首を吊らなければならないのだ。

しかし、シオニズムに話を戻す：

この時の勝利は完全なものだった。当初から、西ドイツでは、占領軍とシオニズムの従順な下僕である抵抗者と移住者だけが、オストマルクと同様に政権を握るように配慮されていた。こうすることで、シオニストは自分たちの存在をより目立たなくすることができ、彼らを取り戻した権力は人々に気づかれることなく続いていった。今日、このような意見が広く聞

かれるようになった：

"彼らを放っておいてくれ。FRGの3万人のユダヤ人はもう全然関係ないんだから。"

その逆も然りである。戦後数十年経った今でも、ドイツは占領国であり、シオニストの意思によれば、今後もずっとそうであろう。国民が進んで占領統治に耐えるようにするためには、さまざまな方策が必要だった。

部門です：

ドイツの国境地帯、合計で帝国の領土の4分の1が分離され、隣国へ分配された。東部地区は、ソ連軍の戦車の威力の下に強制的に占領された。オストマルクは、法的にも契約的にも併合を禁止された独立中立国家とされた。しかし、西側地帯はアメリカを手本にせざるを得ず、ドイツ占領共和国となった。

デナズ化：

国家的抵抗の担い手として、国家社会主義者はまず強制収容所に入れられ（「自動逮捕」）、何年も労働を禁じられ、資産は没収され、当初は政治活動も許されず、常に新しい迫害と再教育の波にさらされることになった。

繁栄すること：

オストマルクと西ドイツの自由資本主義体制は、繁栄によって人々と体制を和解させた。戦争の惨禍と占領支配の悲惨さを経験した多くのドイツ人が、ようやく一度は豊かに暮らせるようになったと喜んだのは、人間として理解できることである。戦勝国の軍隊がドイツの都市を行進しても、ほとんど誰も何とも思わなかった西ドイツに比べ、東ドイツでは占領支配がより顕著に、より明白に残っていたのである。

再教育です：

国民全体が洗脳された。嘘と戦争プロパガンダが歴史となり、誰にも揺る

がすことが許されず、現代史の「確実な知識」となった。ドイツの裁判所は、シオニストと占領者の従順な召使として、「結局、ドイツが二つの世界大戦の責任を負ったこと、ナチスが600万のユダヤ人を殺したことは誰もが知っているから」と、証明しなくてもいいことを信じ込んで宣言した。というのも、「結局のところ、ドイツが2つの世界大戦の責任を負い、ナチスが600万人のユダヤ人を殺したことは、誰もが知っていることだからだ」--ところで、これは民主主義と人類のための十字軍で高く評価されている同盟国スターリンのもとでの大量殺人のごく一部であり、テロ爆撃や追放による無実の犠牲者と同じ程度だったはずである！- このような洗脳が完璧に成功したため、多くの国民は、弁解のための議論を検討したり、反証拠に注意したりすることさえも拒否しています。

世界には、明らかに有罪であることが許されることをこれほど切望している国家はない。移民でありシオニストの下僕であったブランドは、ドイツ国民の名において、謙虚にポーランドの土地強奪者の前にひざまずいたのである！再教育は、シオニストの真の成功である。再教育は、わが国民の健全な要素が自由を求める運動で団結することを妨げるだけである。それは恐ろしい犯罪である。なぜなら、その歴史によって、彼らは我々の民族から魂を奪ってしまったからである。それこそが、私たちが神聖視するものすべてを塵に投げ捨てたこの世界の疫病を憎む主な理由である。

人工的な退廃：

文化的生活の破壊、ライフスタイルのアメリカ化、都市の軽視、若者の一部の軽視、病的な消費主義、人種混合や外国人労働者の統合を求める声、出生率の低下、ポルノ、乱交、性感染症の増加、私生活への後退、その他多くのことが、人工的な退廃の症状である。人為的な、とは、私たちの人々の勤勉さ、働く意志、効率性が、たとえ打ちのめされたとしても、まだ存在しているからである。抵抗する力はまだ人民の体の中で蠢いており、まさにその力が若い世代で絶えず強くなっていることが明らかになりつつある。人為的な退廃は、シオニストが人民の身体を破壊するための最後の、いわば最終的な手段である。彼らが夢見る「世界国家」の前の最後の段階である（参照：1926年パネウロパ運動の創始者クーデンホーフ＝カ

レルギー伯爵：「我々が目指しているのは、ユダヤ人の「精神的貴族」の指導下にあるアフロ＝ユーラシア混血人種である」（逆カンマ、M・K）。

今、私たちは、西洋社会を自殺に追い込んでいるメカニズムに気づいている。政治家たちの行動は、愚かさだけでは説明できないからです。このような観点から見ると

シオニスト議定書』には、少なくとも1つの真実の芽が含まれていると言える。偶然の一致？

シオニストの権力の中心は、北米合衆国にある。これは、左翼の反シオニズムが、正直なところ全く意味しない限り、成功しない理由でもある：

反シオニスト左派は、イスラエルがそれ自体として実行可能であり、権力の道具に過ぎないことを正しく認識している。しかし、主敵は資本主義にあると考え、シオニズムは資本主義の道具であり、イスラエルはアメリカ帝国主義の前線基地であり、アラブ民族の肉体に突き刺さる杭に過ぎないと結論付けているのである。したがって、シオニズムは左翼にとって二次的な戦争の場、つまり地域的な問題となる。しかし、反シオニスト闘争を成功させるためには、シオニズムが我々の主敵であるという事実から出発しなければならない：

ユダヤ国家を支配し、帝国主義的な目的のために利用しているのはアメリカではなく、アメリカの政治を支配し、アメリカに国益を著しく損なう中東での道を歩ませるシオニズムなのである。**"資本主義はシオニズムの道具である！"**

FRGがアメリカの植民地であるように、アメリカはシオニストの植民地である。ここにシオニズムの力の源泉がある。アメリカは2度、ドイツに対して世界大戦を決行した。2回ともアメリカ国民は平和を望み、シオニストは戦争を強行した。彼らはアメリカ経済、特に銀行と保険業界の大部分を支配している。彼らは、すべての主要なテレビネットワークと、有名で尊敬される主要な日刊紙のほとんどを所有している。彼らは、議会で最も

組織化された最も強力な「圧力団体」であり、上院議員や下院議員は彼らに仕え、大統領選挙では決定的な少数派であり、アメリカ最大の都市ニューヨークの支配者であり、市長は常にユダヤ人である。モーゲンソー、キッシンジャー、ブルメンタールなど、要職にユダヤ人閣僚のいないアメリカ政府は存在しない。アメリカには、イスラエルを含め、地球上のどの国よりも多くのユダヤ人が住んでいる。アメリカの政府の中には、本当のアメリカ人は統治するのに適していないのではないかという印象を持つものがある：

ユダヤ人と黒人しかいないんですね！しかし、そのどちらでもない人は、おそらくポーランド人かそれに類する人でしょう。アメリカはまた--これは非常に重要なことだが--世界のフリーメーソンのマザーロッジであり本部であるブナイブリス・ロッジの発祥の地でもある。ブナイブリスロッジからは世界中のフリーメイソンが指令を出し、ここから外交問題評議会（CFR）へと糸が繋がっていく。

CFR、この無害な名前の裏には、本当のアメリカ政府が隠されています。大統領はここで考え、ここで「決断」する。シオンの賢者、アメリカ経済、多国籍企業、そして命令の受け手である政府機関の間に最も密接なつながりが見出される場所である。ここで彼らは、未来の世界、「一つの世界」、つまり世界政府の形成について話すのである。

CFRは、欧州諸国の政治に影響を与え、欧州で最も影響力のある政治家や実業家が集まるメーソンの秘密組織、いわゆる「ビルダーバーグ会議」にも影響を及ぼしています。これらのビルダーバーグは、ヨーロッパにおいて、アメリカのCFRと同様の役割を果たすことを目指しており、彼らとは個人的なつながりもある。このネットワーク全体が、私たちが「黄金の国際会議」と呼ぶものの現状であり、反動の本部である。ここには、自由を求める民族や国家の願望に反対する者が立っている。CFRを通じて、シオニズムの第二の手段である共産主義的支配圏にもつながっているのだ。国家社会主義者の「共産主義はシオニズムの道具だ！」という声明ほど、多くの国民にとって信じられない、「クレイジー」な主張はないだろう。

ツァーリを陥落させるきっかけとなった1917年の二月革命は、メーソン革命であった。これは、ボルシェビキが政権を握るまでロシアの首相を務めていたケレンスキーの回想録から明らかである。二月革命によって、ほんのわずかだったボリシェヴィキ党が、クーデター（最初はそれしかなかった）が成功する可能性を持つような形で組織化されるようになったのである。十月革命の資金は、2つの方法で調達された：

メーソン界の仲介で、ロシア革命による東部戦線の救済に理解を示す帝国ドイツ参謀本部の興味を喚起したのである。

革命とそれに続く内戦の勝利の実質的な組織者であるユダヤ人トロツキー（本名はブロンシュタイン）を通じて、ユダヤ系アメリカ人の銀行家ウォーバーグの資金を含むかなりの財源がボルシェビキ党の財源に流入した。ボリシェヴィキの主要人物は、レーニン、カガノヴィッチ、悪名高いチェカ長官ドシェリンスキー、とりわけトロツキーなど、ほとんど全員がユダヤ人、あるいはユダヤ系の血を引く人物だった。

後者は、ボルシェビキ革命の指導におけるシオニストの腹心として、決定的な人物であった。トロツキーは、病気のレーニンの後継者であり、全ヨーロッパをボルシェビキの支配下に置くという「永久革命」の英雄であることを意図した人物でもあった。ボルシェビキの指導者たちの出自も資金源も否定することはできない。詳細はまだ謎に包まれているかもしれないが、シオニストによるマルクス主義の支持は、マルクス主義を発展させ、力を持たせたのがユダヤ人であるという事実以上に疑わしいものではないのである。そして、「一つの世界」、すなわち世界革命という同じ構想を、上と下から同時に追求すること以上に、本当に良い考えがあるのだろうか。

大衆は、資本主義と共産主義の見かけの対決という光景に目を奪われ、両体制の権力者が同じであること、そして、互いに本気で傷つけ合うことはなく、暗黙のうちに世界を二分していることに気づきもしない。表向きは反共主義的な言い回しをしていますが、実際には、アメリカの政策によってソ連が途切れることなく優遇されていることを、

私たちは当初から現在に至るまで体験している。ここにいくつかのキーワードがある：

ユダヤ系アメリカ人の大銀行によるレーニンとトロツキーへの融資、内戦中の反共主義者とツァーリスト忠実派に対する西側の支援の欠如、対独戦争におけるソ連・アメリカ同盟、軍事的にすでに敗北したソ連をソ連軍の大規模かつ無償の装備（リース・ローン契約）によって救済、ドイツとヨーロッパのアメリカ・ソ連間の分割；アメリカの原爆独占による圧力可能性の放棄と、ソ連を第二の世界大国と認めること（権力政治的にそうなるずっと前に、奇妙な「スパイ事件」によってソ連指導部の手に原子研究の秘密が渡り、ソ連の原子爆弾はそれに続き、その拡張は抵抗なく受け入れられる）；東欧圏（ウクライナ、ハンガリー、東部地区）の反乱に対する西側の援助なし、ソ連の脱植民地化プロパガンダに対するアメリカの支援（こうして2つの世界大国は、最後の比較的独立したライバルであるフランスとイギリスの植民地帝国を粉砕した）、内戦の最中に突然国民中国への軍事援助を打ち切り、中国での共産党の勝利を可能にした、ソ連への西側技術の供給、ベトナムとアンゴラなど。、など。

数え上げればきりが無い。歴史上の「陰謀論」を信じない人でも、これほどの「愚かさ」は、もはや普通ではなく、偶然でもないことを認めざるを得ないだろう。一点一点、違う説明ができるのに、60年以上にわたってこの展開？すべて偶然なのか？

すべてが偶然であるならば、確率の計算によれば、決断もまた、時折、我々に有利に働くはずである。しかし、このような場合、例えば、シオニストの影響から中国共産党を解放する場合、中露の対立の場合、西側の政策は、ほとんど絶望的にこれを利用しようとならない。いや、ここでは全く異なる計画やアイデアが追求されていることは、誰の目にも明らかであるはずだ。しかし、一般市民にとっては、大資本家と共産主義者の共通点、共通利益がどこにあるのかが理解できないのである。共産主義者の支配者にとっては、西側の技術、経済援助、知識、富を必要としていることは明らかかなようだ。

しかし、インサイダーたち、つまり大資本家、銀行家、有力なフリーメイソン、シオニストといった小さな層は、何を望んでいるのだろうか。彼らは西洋世界を支配する巨大な力を持っており、マルチコーポレーションは真の大国であり、彼らは無限の富を持っている。金と影響力に基づく彼らの力を増大させるものはただ一つ、絶対的な力、すなわち世界征服である！

ここで、赤は黄金のインターナショナルと出会う。地球を支配する総力戦という共通の夢の中で。また、資本主義と共産主義がシオニズムの中で一体化するのもここであり、選ばれた人々の世界支配という神の約束を権力政治的に実現するのである。しかし、完全な世界支配は、少なくとも権力者にとっては、完全な世界支配であることに変わりはない。絶対的な権力は、どのような仮面の下でも、どのような名前でも、常に同じものである。大銀行家と書記長との間に違いはない。ここに、進化した、民族と国家の自然な秩序に反対する者が姿を現す。理想主義や人間の尊厳の反対者である！いずれにせよ、シオニズムとは、パレスチナにユダヤ人国家を樹立し維持すること以上の意味を持つことは明らかであるはずである。

ナフム・ゴールドマン博士は、しばしば驚くほど正直であるが、親ユダヤのオピニオンメーカーのメカニズムがうまく機能しているため、自分の発言のリスクが低いことも知っており、こう詳しく述べている：

"ユダヤ人はウガンダやマダガスカルなどの領土をユダヤ人の祖国とすることができたが、パレスチナ以外は絶対に欲しくなかった。"死海から蒸発によって5兆ドル相当の金属類と金属粉が生産できるからではなく、土壌に南北アメリカの石油埋蔵量を合わせた20倍もの石油があるからではなく、パレスチナがヨーロッパ、アジア、アフリカの交差点だから、パレスチナが世界政治力の真の中心、世界支配の戦略的中心を成すからだ。"(1979.3.6の追記;)

私たちの信念は、他の著名人たちにも共有されている。イスラム教シーア派の最高宗教指導者であり、親シオニストであるシャーを打ち

負かしたホメイニは、1968年に著書『イスラム連隊』の中でこう書いています：

"...これらの策略を暴露し、ユダヤ人とその外国人後援者が、ユダヤ人が世界を支配する道を開くために、イスラムに対して共謀したことを世界に大声で叫ぶことは、我々の義務です..."

ユダヤ人問題をどう解決するかという問題は残る。あらゆる可能性を味方につけているように見えるこの強大な力に、私たちはどう立ち向かえばいいのか。

まず第一に、認識されている相手は戦いやすいということです。シオニズムの重要な戦略は、常に背後にいて、静かに活動することであった。いわゆる「反ユダヤ」的な著作や書籍の禁止、民族思想の穏やかな弾圧、洗脳はすべてこの目的にかなうものです。これはもう不可能です！人々はついに目を覚まし、歴史の真の形成者を求めているのです。

ユダヤ人問題は解決できる、シオニストという世界の疫病神の力を断ち切らねばならない。我々が権力を掌握した場合、ユダヤ人は直ちにドイツ国籍を失い、外国人法の下に置かれることになる！

彼らは権力の座を明け渡し、我が国民の客人として振舞わなければならないだろう。もちろん、これは解決策ではないが、国家の一方的な行動は、歴史が示すように、悲惨なことになる。シオニズムは、再びユダヤ人迫害を声高に叫び、世界を第三次世界大戦に陥れようとするだけである。

シオニズムの世界的な権力もまた、世界的に壊されなければならない。そうすれば、民族と人種に基づく自然な世界秩序の可能性も出てくる。一方、絶対的で物質主義的な世界強制国家の恐怖のビジョン-不幸な民族の妄想的な夢-は現実化することができない。ユダヤ人は、彼らが自由に生活できる独自の国家を持つべきである。この国家は実行可能で、すべてのユダヤ人を含むものでなければならない。この新しいユダヤ人の国家は、パレスチナに置いてはならない。パレスチナはアラブの祖国であ

り、今もそうである！しかし、世界には、勤勉で知的な人々のための十分なスペースがまだあり、そうなれば、もはや世界の恐怖となる必要はない。また言った：

私たちの憎しみは、シオニストという世界の疫病に対して向けられているのであって、個々のユダヤ人に対してではありません。シオニズムの道具にならなかったユダヤ人は、常に存在し、今も存在する。私たちが訴えるのは、彼ら、そしてシオニスト指導者の犯罪についてまったく明確な考えを持たないユダヤ人たちである：

"人と同じになる "こと、"選ばれる "という夢を捨て去ること。ゴイム（異邦人）の上に誇らしげに上り詰めてはならない、そうすれば彼らの抵抗に遭うこともない。一線を引いて、新たに出発しよう！"

しかし、もしそうならず、シオニズムがその世界的な犯罪計画をあきらめないのであれば、容赦なく潰されることになる。

ユダヤ人問題の最終解決：

これは、ユダヤ人の絶滅を意味するのではなく、シオニズムの完全な破壊を意味します。

この最終的な解決は、近未来の最重要課題である。



NS KAMPFRUF
KAMPFSPRITZ UND NATIONALSOZIALISTISCHEN DEUTSCHEN ARBEITERPARTEI AUSLANDS- UND AUFFBAUORGANISATION

September 1934 Ausgabe 1273 26. April 2017 02.06

Der Kampf geht weiter !

Wahing Jahre nach der Kapitulation der Wehrmacht am 8. Mai 1945 ist die nationalsozialistische Bewegung wieder da in ganz in der Nachkriegszeit. Und zwar tritt sie in Deutschland, sondern auf globaler Ebene!

Mitglieder von Massenarbeit, Vorbereitung, Verfolgung und Verfolgung haben nicht erreicht, das Land die gesamte Idee unserer hoch geliebten Führer Adolf Hitler zu zerstören.

Alle Nationalsozialisten sind weniger gefährliche Täter und Kameraden sondern Schlichter als Schüler im Kampf um die Erlangung unserer wahren Ziele. Die Bewegung ist zwar wieder geworden, aber die Größe des hochgeliebten Volkland ist keine noch viel größer als in der Vergangenheit.

Die vornehmliche Aufgabe ist eben Adolf, der Volksmann - gegen alle wahren Väter (V) - zu bringen. Seine Mittel sind Erziehung, Überführung und Kameradenarbeit.

Ob "legal" oder "illegal", ob im Wahlkampf oder im Massenarbeit, ob im Propagandaarbeit bewacht oder auf einem Schulhof mit anderen Art. Jeder Nationalsozialist hat seine Pflicht!

Hilf Hitler!
Gottard Lauth



TROTZ VERBOT NICHT TOT!



N.S.ニュース速報A
www.nsdapao.org
#1005 19.06.2022 (133)

NSDAP/AO: PO Box 6414 - Lincoln NE 68506 - USA

フロントレポート
モリーへのインタビュー

第3部

NSK: 現在のプロジェクトは、明らかに哲学的で、アートに関連したものです。

このような活動が政治に与える影響について、あなたの考えをお聞かせください。

モリーです。フォトギャラリーの更新は続けていますが、主に Adolf Hitler and the Army of Mankind (www.movingtheancient.com/truth.htm)に集中して取り組んでいます。現在2ページですが、まだまだやるべきことがたくさんあります。第二次世界大戦の戦場は、まさに情報の埋蔵庫です。1つのことについて情報を探しても、さらに2つほど調べたいことが出てくる。まるで、埋も




the NEW ORDER
Number 176 (132) Founded 1978 April 26, 2017 (133)

The Fight Goes On !

Seventy years after the capitulation of the Wehrmacht on May 8, 1945, the postwar National Socialist movement is stronger than ever not only in Germany, but throughout Europe.

Decades of mass murder, expulsion, persecution, and defilement have not sufficed to destroy the seed of the brilliant idea of our much loved Führer Adolf Hitler.

All National Socialists and other racially-aware conservatives and racial kinemen fight side by side for the preservation of our White folk.

The movement has indeed become stronger, but the danger of biological folk death is also much greater today than in the past.

The desperate enemy is in the process of committing genocide against all White folk. His means are non-White immigration, culture dilution, and race-mixing.

Whether "legal" or "illegal", whether in election halls or street battle, whether armed with propaganda material or on a battlefield of a different kind every National Socialist must do his duty!

Hilf Hitler!
Gottard Lauth



TROTZ VERBOT NICHT TOT!

NSDAP/AOは世界最大です 国家社会主義プロパガンダサプライヤー！

多くの言語での印刷物およびオンライン定期刊行物
多くの言語の何百冊もの本
多くの言語の何百ものウェブサイト



BOOKS - Translated from the Third Reich Originals!
www.third-reich-books.com



NSDAP/AO
Fight Back!



nsdapao.org
Contact us to find out how YOU can help!